



竹田 ゆかり 市政通信

〒248-0024 鎌倉市稲村ガ崎 5-31-11 連絡先 090-3535-4474

E-mail yukari.ain@gmail.com

「通信」という言葉には交流・ふれあいの意味があります。

またもや、住民軽視？

二〇一八年度 鎌倉市一般会計予算修正案可決。

市は新年度予算案に、今泉焼却施設跡地で、「生ごみ減容化施設」を稼働させるとして、突然、施設整備事業費を予算計上した。

生ごみ減容化とは、生ごみを分解する菌を含んだ「菌床」に生ごみを混合・かくはんさせ、微生物の力で二十四時間かけて90%以上分解減量させるという仕組みだ。

この話は、昨年6月から市内で検討が進められていたにもかかわらず、議会への報告や、今泉地域住民への説明会を開くこともなく、更に「生ごみ処理の在り方について審議する審議会」もかけられていなかった。

一口ロトンの処理からスタートして、最終的には全市の生ごみ処理をするとの説明だが、果たして生ごみを安定的に処理できるのか。この施設を稼働させるとなると、「生ごみ」を燃やす「ごみ」から分別しなければならぬが、収集体制はどのようになるのか。市民の協力

は得られるのか。なぜ拙速にスタートする必要があるのであるのか等々の質問について、市からの納得できる説明がなされなかった。そのため、

生ごみ減容化施設関係費用六千九百四十六万六千円を減額する修正案が提出され、多数により可決した。

市によれば、今泉地域の連絡協議会で話を進めてきたとのことだが、一部の心通じた方々とさえ話がつけば、話が進められると考える姿勢こそが問題であり、市はこれまでも、数々の事業を頓挫させてきたのではないかと。また審議会は、市が説明責任を果たし、透明性を確保するために、公正中立な判断を求めるところである。これまで、審議会協議会の軽視でいくつかの事業が滞ったことがある。北鎌倉の緑の洞門封鎖二年間。山崎新焼却施設白紙撤回請求。図書館協議会のやり直しなどなど。

新たな事業は、丁寧な説明と市民合意の上で進めなくてはならない。

4喫煙所の撤去が決まる！

鎌倉市は、路上喫煙禁止区域内にある4か所の喫煙所(①鎌倉駅西口広場②大船駅東口歩道橋下③大船駅東口ペDESTリアンデッキ広場④大船駅西口)を、廃止・撤去することを決めた。

この4か所のうち、②の喫煙所(写真右)については、歩道橋を上り下りする方々が副流煙を吸い込むことになることから、環境保全課に依頼し、昨年12月25日に現地調査を同課職員と行ったところである。(19号で紹介)

また③の喫煙所(写真左)については、竹田ゆかりブログ(2015年5月15日投稿)で「ベストポジションの喫煙所…気持ちよくタバコを吸える場所は、素晴らしい景色と電車を眺めたい子ども達が近づけない場所になっている。」として、問題性を指摘してきた経過がある。

4か所の喫煙所は、すべて開放型の喫煙所のため、市

民から「煙がもれている」との苦情が届いていた。現地調査後、環境保全課が対応策を検討してきた結果、これらの喫煙所を廃止して、開放型ではない「屋内型喫煙所」を設置することを決めたとの報告があった。(撤去時期については2018年度中に決定)

市は今後、先進自治体(千代田区・港区)を参考にして、民有地屋内型喫煙所の設置(助成事業)を研究・検討すること。市民の健康と安全を守るのは市の仕事である。これで、やっと副流煙被害が軽減されることになる。



(仮称)情報弱者支援カード

7,000 枚発行！

本市の防災・安全メール配信対象者数は、現在23,741件だが、メール受信手続きは高齢者にとってハードルが高く、本来最も情報を必要とする高齢者世帯・独居高齢者世帯・災害時要支援者の方々に届いていない可能性があることを、12月議会で指摘した。この指摘を受けて、市は消防テレホンサービスや、防災安全メールへのアクセスを呼びかけるカードを7,000枚作製した。今後、要支援者お宅訪問時や消防予防課、福祉関連課での活用を目指すとしている。



大船駅東口、汚水の臭いから解放へ！

かねてより、市民の方々から、「大船駅東口から笠間口方面に向かう路上で、汚水のおいがする」とのご指摘をいただいていた。市は大船駅再開発事業に合わせて下水道管末接続箇所を整備するとしてきたが、開発事業はとん挫している。

開発を待たずに「早急の改善を」と、担当に求めてきたところ、来年度予算に下水管接続のための予算が付いた。今後一日も早い整備を求めていく。

教職員の働き方改革は待ったなし！



鎌倉市教育委員会は、昨年7月に、鎌倉市教職員およそ650人の勤務実態調査を行った。その結果、全国調査結果同様、勤務時間外(休日も含む)に多くの時間を使って、多岐にわたる業務を行っていることが分かった。

議員になって5年、これまでもたびたび教職員の多忙化が、子どもたちに与える影響について指摘してきた。

2月一般質問では、「学校現場の働き方改革は待ったなしの状況である」と訴えた。文科省は緊急提言の中で、「学校現場は、直ちに改善が必要な状況であり、すべての関係者が、問題解決に向けて実行しなければならない」と述べている。まさに、すべての関係者の中心に

位置しているのが「鎌倉市教育大綱」をつくった市長であることを指摘。市長からは「早急に対応する」との答弁を得た。

教育委員会は、3年間のロードマップを提示した。



2018 年度予算編成と主な事業

予算総額

一般会計 597 億 5,290 万円 (0.2%減) 特別会計合わせて 1,074 億 7,550 万円 全体で 6%減 市民税減収による。(修正案可決前)

主な事業

- ① 市役所の業務に対し、ロボットによる業務自動化の導入可能性調査
- ② 防災行政無線デジタル化整備
- ③ 旧鎌倉図書館を保存して、子どもの家として使用するための改修と増築工事
- ④ 小児医療費助成事業拡大
これまで小学校 6 年生までだった助成を中学 3 年生までに拡大(所得制限あり)
- ⑤ 鎌倉駅東口駅前広場整備
- ⑥ (仮称)浄明寺 5 丁目広場用地(旧鎌倉県営住宅跡地)取得 保育園整備予定
- ⑦ 深沢小・関谷小に放課後子ども広場・子ども会館の開設
- ⑧ 保育園等に通う第 2 子の保育料の無償化
- ⑨ 小学校 6 校空調設備設置
- ⑩ 小中学校未改修トイレの改修
- ⑪ 障がい者 2,000 人雇用センター運営委託

《2018年度予算に、賛成の立場で討論》

●一般質問で取り上げたことで、新たに予算化されたもの

- * 学校における、『高額楽器購入計画』策定のための、現状調査委託料
- * 学校配当予算と別枠での楽器購入費
- * 教職員のための「安全衛生委員会設置」にあたっての、産業医報酬費
- * 小学校英語非常勤講師報酬費
- * 小学校パソコン購入費

●評価できなかったこと、たとえば…

- * 学校現場から多くの声が上がっている「小学校給食会計事務の公会計化」にあたっての「システム導入費」が予算化されなかった。可能な限りの、前倒しでの導入をすべき。
- * 鎌倉市の高齢者は、他市に比べて、近所づきあいが希薄であることが調査結果から明らかとなっている。「外出促進、認知症予防、地域での孤立を防ぐ」ためにも、公共交通無料パスの予算化がなされるべき、などなど。